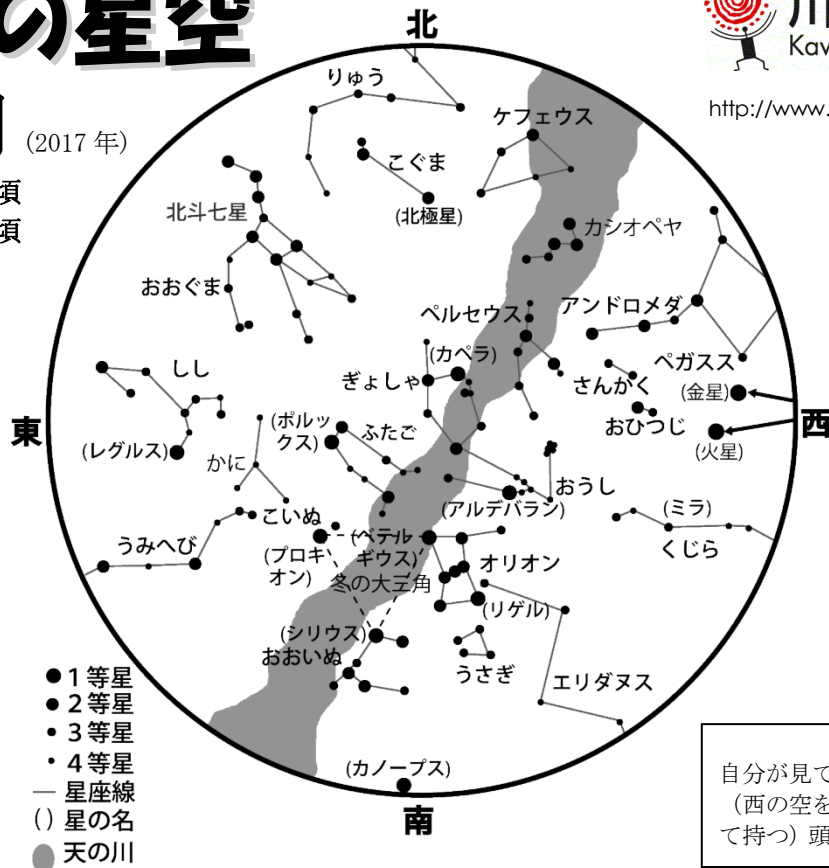


今月の星空

2月 (2017年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



- 月 齢 ● 上弦 4 日、○ 満月 11 日、◐ 下弦 19 日、● 新月 26 日
- 惑星情報
- | | | |
|----|-----|------------------------|
| 金星 | 夕方 | 西 (うお座 -5 等級) |
| 火星 | 夕方 | 西 (うお座 1 等級) |
| 木星 | 明け方 | 南 (おとめ座 -2 等級) |
| 土星 | 明け方 | 南東 (へびつかい座 → いて座 0 等級) |

☆ 金星が最大光度 (17 日)

金星が17日に最大光度 (-4.6等級) になります。これは1等星の170倍もの明るさなので、肉眼でも昼間の青空に白い点として見る事ができます。2月中旬の午後2時ころ、真南の空の高度60度ほどに見られます。腕をのばして握りこぶしを縦にした時の幅が10度なので、これを目安に昼間の金星を探してみてください。金星の近くには太陽があります。大変危険なので、太陽光が直接目に入らないように気を付けてください。望遠鏡で太陽をのぞくことも厳禁です。

金星は太陽との位置関係により、地球との距離が変わったり、月のように満ち欠けをしたりすることで明るさが変化しています。2月11日に科学館の夜間観測会で観測する予定です。金星はどんな形に見えるでしょうか。

☆ おおいぬ座のシリウスとこいぬ座のプロキオン

おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオン、オリオン座のベテルギウスの3つの1等星を結ぶ、冬の大きな三角が南中 (真南にくることをいいます) しています。

シリウスとプロキオンは、共に白色であることから日本では「南の色白 (いろしろ)」と「色白」、また、シリウスの方がプロキオンよりも明るいことから「大星 (おおぼし)」と「小さい大星」などと呼んできました。

シリウスには、その周りを50年の周期で公転している伴星シリウスBがあることが知られています (肉眼で見ることはいけません)。この伴星は太陽とほぼ同じ重さ (地球の35万倍) ですが、大きさは地球の2倍ほどしかありません。そのため、地球と比較して密度は7万倍、重力は12万倍もあります。このような星は『白色 (はくしょく) わい星』と呼ばれ、太陽のような星が一生を終えた姿です。プロキオンにも『白色わい星』の伴星があることが知られていて、これらの点で2つの星は似ています。